

グローバル人材の育成を見据えた国際交流の推進事業

「ミクロネシア諸島自然体験交流事業」

1. 趣旨

子どもたちの自然体験活動などの充実を図るために、日本と交流の歴史のあるミクロネシア地域の子どもたちとの相互交流を行う。国立花山青少年自然の家所在地である栗原市内の小学校での授業交流、文化交流やホームステイを通して異文化理解を図るとともに当施設及び周辺の自然について学ぶ機会を提供する。

2. 主催・協力・協賛

主催：独立行政法人国立青少年教育振興機構、国立花山青少年自然の家

協力：栗原市、栗原市教育委員会、栗原市立築館小学校、南くりこま高原一迫ゆり園

一迫山王遺跡公園あやめ園、自然薯の館、くりはら振興株式会社（エポカ21）

協賛：株式会社ニッコトラスト

3. 事業の概要

(1) 期日 平成28年6月23日（木）～6月27日（月）〔4泊5日〕

(2) 参加者

- | | | |
|-------|---------------------------|-----|
| ①参加対象 | ミクロネシア諸島招聘小中学生（チューク、コスラエ） | 24名 |
| | 栗原市内小中学生 | 12名 |
| ②参加人数 | ミクロネシア招聘小中学生 | 24名 |
| | 日本人小中学生（小学生5名、中学生4名） | 9名 |

4. 企画・運営のポイント

①栗原市教育委員会及び栗原市小中学校長会に出向き趣旨説明を行い、交流小学校の選定やホストファミリー募集に協力を得ながら事業を実施した。

②栗原市ジオパーク推進室と連携しながら自然体験活動プログラムを実施した。

5. 日程

	活動内容	場所
6月23日（木）	・くりこま高原駅到着 ・ゆり園、あやめ園の見学 ・市長・教育長表敬訪問 ・キャンプ場での生活	南くりこま高原一迫ゆり園 一迫山王遺跡公園あやめ園 栗原市庁舎 花山青少年自然の家
6月24日（金）	・学校訪問・交流会（文化・授業交流） ・花山青少年自然の家本館での生活	栗原市立築館小学校 花山青少年自然の家（本館）
6月25日（土）	・御駒山ハイキング ・ホストファミリーと対面、日本の生活	御駒山（自然の家周辺） 各ホームステイ先
6月26日（日）	・ホームステイ先での生活 ・フェアウェルパーティー ・ホテルでの生活	各ホームステイ先 エポカ21（清流の間） ホテルエポカ
6月27日（月）	・ショッピングモール散策 ・くりこま高原駅出発 ・国立オリンピック記念センターでの研修	イオン志波姫ショッピングセンター くりこま高原駅 国立オリンピック記念センター

6. 主な活動内容



栗原市長・教育長表敬訪問



築館小学校での授業交流



みんなで仲良く登った御駒山ハイキング



涙ながらに別れを惜しんだフェアウェルパーティー

7. 成果と課題

(1) 参加者アンケート結果（日本人小中学生）

満足：78% やや満足：22% やや不満：0% 不満：0%

(2) 参加者の声

- ・一緒にスポーツをしたりご飯を食べたりして、とても仲良くなれた。たくさん話したり笑ったりできて、とてもとても良かった。またミクロネシアの人たちに会いたかった。
- ・英語はそんなに話せなかったけど、少しの言葉でも相手の気持ちが分かるようになった。
- ・もっと英語を勉強してしゃべれるようになってミクロネシアで交流したいと思う。
- ・ホームステイの前日に自然の家に前泊して交流したことはとても良い企画だと思った。子どもたちがより自然に親しくなれる活動ができたと思う。（保護者）
- ・ホストファミリーとして、全てが楽しい良き思い出となった。また機会があったらホストファミリーを受けたい。

(3) 成果

- ①学校交流会は、日本人小学生にとって異文化を理解するよい機会だった。活動を通して両国の子どもたち同士のコミュニケーションが十分に図られた。
- ②文化体験、自然体験では栗原に関係する地域での体験をプログラムに取り入れた。地域の関係機関と連携してプログラムを準備することができた。

(4) 課題

ホームステイは、日本人にとって言葉の壁による恐怖心があり、受け入れに消極的な家庭が多く見られた。実際には受け入れ後の全てのホストファミリーが大きな感動を味わっているの、その事例を伝えると共に言葉の壁を緩和するための事前の資料や説明が必要であると考え。

担当：主任企画指導専門職 狩野 浩二